【報告　１－１】

令和７年度第２回　富津市図書館協議会（令和７年 10 月１日）　の報告について

【佐倉市立中央図書館長　利光氏による図書館の案内】

- 2023 年３月に開館した地下１階、地上２階建て「夢咲くら館」の地下１階に図書館が入っている
  ・経緯：旧図書館は東日本大震災後の耐震基準を満たしてないことから建替えが決まった
  ・設計：市の施設保全担当課と、設計事務所、市民のワークショップを行い検討を重ねた
  ・建設場所：印旛郡役所跡地で商工会の駐車場（お祭りの山車が入ってくるなどのため、スペースを作るため図書館は地下にせざるを得ない事情があった）
- 図書館は地下になっているが、北側斜面に植栽をして開口部を設け、読書スペースには自然光が入り、屋外テラスもある
- 自習コーナーのほかに、自習室（サイレントルーム）を設置して利用目的に合わせて分けている
- 学習スペースは対面のテーブルだが仕切りがあり、集中できる場所になっている
- 子育て交流センターも同フロアにあり、平日も子育て中の利用者が多い
- 子育て交流センターとの併設のメリットとして活気がある一方、デメリットはで、騒がしいという意見もあるが、司書と保育士との連携ができるため、利用者へのサービス向上につながっている
- 館内には仕切りを作らないコンセプトとした
  周りの音が気にならないように、季節ごとに地域の音響デザイナーが作った環境音を流している
- 施設の１階には３年間のトライアルでカフェが設置されていて、多世代に利用されており、運営は順調だが、トライアル期間後は賃貸条件が変わるので未定
- 公立図書館と学校図書館の関わりは団体貸出などが主で、他に、電子書籍を読書の時間に使ってもらうようにしたところ、利用が伸びた
- 図書館ボランティアとの関係は、地域文庫連絡協議会が月２回おはなし会を実施していて、年に数回「おはなしキャラバン」が人形劇などを行っていて関係は良好
- レファレンスの利用状況は、デジタル化が進み、問合せが少なくなってきているが、施設の２階に「佐倉をまなぶフロア」があることもあって、歴史関係の問い合わせが多く、司書だけでなく、学芸員（週一回の配置）と協力して回答することもできている

【質疑応答】

① 図書館は静かなところという意見があるそうだがどう答えているのか
  ・複合施設のコンセプトを説明し、理解をいただくようにしている
② 高等学校との連携コーナーがあったがどのように取り組んでいるか
  ・市から働きかけ、佐倉東高校調理国際科の生徒によるお菓子の販売を月１回行なっている
③ 市内に３館の図書館があるが、各館の特色などはあるのか
  ・今は大きな違いはないが、これから図書館協議会に特色づくりの計画を挙げたい

④ 各館の選書はどうしているのか

・各館で選書しているが、重複しないようにしている

⑤ 脳活に興味をもっているので訊ねるが、関係する事業はあるのか

・65 歳以上の方の利用が半数となっており、市立図書館を利用してもらい、読書環境の提供をする事で、健康寿命に貢献したいと思っている

参加した委員からの意見

- 子育てしながら本に触れあえる環境がうらやましく感じた
  図書館に限らない連携が必要と感じた
  既存の公民館図書室も活用したい
- おはなし広場を見せてもらい、富津市にも読み聞かせをするコーナーはあるが、子育てに関する本も併せて置いてあったらよいと思った
  子育て支援センターと図書館の分室のようなものが設置できれば良いと思った
- 利光館長は「当館はこういう施設」という説明をするというのを聞き、多様性の中で「当館はこういう図書館」と打ち出していくことは大切だと思った
- トイレなどの施設も合わせて、子育て世代から見てとても魅力的な図書館だった
- 子どもの声がうるさいという意見もあるようだが、お互い歩み寄って、活気のあるまちづくりができるのではないかと思った
- キッズカートは手が自由になるので、取り入れて欲しいと思ったし、富津市の図書館より書架の下段が見やすかったので富津市も取り入れて欲しい
- それぞれの市の状況に合わせて良いものが出来ればいいと思うし、協力できることは自分も協力したい
- 図書館も開館 3 年目を迎え、これから勉強しあってみんなで育てていけたらいい
- 他の図書館の状況が聞けて参考になったので、見学の候補に挙がった図書館があれば個人的に見に行きたいので教えてほしい
- 共働き家庭が多く、CS など見てもシルバー世代のやれることも、課題もいっぱいあるが先輩方を手本にしたい